

入選

小さな親切が感動へ

福岡県 照葉中学校 1年 山浦 菜摘

4年に一度開催される、サッカーワールドカップ。毎日のようにテレビで放送されたため、サッカーに興味がある人もない人も大いに盛り上がる事ができただろう。日本は強豪国を次々に破り、決勝トーナメントに進出した。決勝トーナメント一回戦でベルギーに敗戦したものの、世界中に感動を与えた。なぜ、敗戦したのに感動を与えることができたのか。それは、日本人選手とサポーターの「小さな親切」だった。

日本人選手が使用していたロッカールームは、ごみ一つ残されてなく、すでに清そう後のようなきれいな状態だった。また、中央にはロシア語で「ありがとう」と書いたメッセージが置かれている。この写真を、FIFA関係者がツイッターにアップすると、スポーツはプレイだけがすべてではないと、世界中から賞賛の輪が広がった。

私は選手だけではなく、日本人サポーターにも目を向けた。やはり、サポーターたちの行動も世界に衝撃を与えるものとなった。世界ランキング3位のベルギーとの戦いで、2点リードして勝利かと思われていただけに、敗戦したときのサポーターたちのショックは大きく、泣きくずれている人も大勢いた。しかし、しばらくすると、気持ちを切りかえて、ビニール袋を手に、ごみを拾いはじめたそうだ。敗戦後にもかかわらず、ごみ拾いをする日本人サポーターを、海外メディアは、

「彼らは敗者でないことを証明した。」

「最高のゲストだ。」

「負けても彼らの素晴らしい精神はなくならなかった。」

などと、この行為も絶賛した。

そして、この日本人サポーターの行動から、他国のサポーターも客席のごみを拾ったそうだ。日本人の行動が、世界の人々の心を動かしたと言っても過言ではなさそうだ。

親切というのは、人にやさしくして、自分も温かい気持ちになるだけではない。世界中に感動を与えることのできるとても素晴らしいことだ。「まずは、ほんの小さな親切から」。それが世界中に感動を与える第一歩となるかもしれない。

今回、日本人選手やサポーターが行った小さな親切のように、私も小さな親切を心がけていきたい。口では簡単に言えるが、それを行動に移すのは、なかなかできることではない。困っている人に声かけるのも緊張してしまうくらいの私に、そんなことができるだろうか。とても広いスタジアムで、ごみを拾う勇気があった日本人サポーターを本当に尊敬する。私も世界中に感動は与えられなくても、相手に感動を与えることができるすてきな人になりたい。